

僕は東京駅から歩いて3~4分の京橋の生まれなんです。戦後の1948年生まれで、当時自宅の前の道は舗装されておらず、大通りは都電が通り、東京駅には蒸気機関車があって、よく石炭置き場で遊んで怒られたんですけどね。焼け跡、空き地、瓦礫、壊れたビルなど戦争の傷痕がまだ多かったけど、最高の遊び場だった。戦争の傷痕は知っているけど戦争自体は知らない。ものがない時代からある時代が変わっていく頃だったんです。八重洲通りでは、バナナのたたき売りだとか、焼け跡で拾った万年筆を売ってる。銀座にだって屋台がありましたからね。

自宅の前に大丸、日本橋には高島屋や白木屋、銀座へ行けば松坂屋や三越などのデパートがあって、路地でビー玉やめんこ、缶蹴りなどのお金が掛からない遊びをしていました。デパートではおもちゃを売っていたけど、買ったのは誕生日とクリスマスくらい。その中でも記憶にあるのが、『禁断の惑星』という映画に登場したロビーロボ

ットのブリキのおもちゃ。すごく欲しいと思って、8歳の時に買ってもらったんだけど、中を見たくて何度もドライバーでこじ開け、完膚なきまでに壊してしまいました。

日本は第一次世界大戦以降、おもちゃの生産国だったんです。人件費が安く、出来がいいから外国から多くの注文が来ました。戦後、早い時期におもちゃ工場は再開して、占領下なのでオキュパイド・ジャパンと刻印されたおもちゃは、輸出品だったけど国内でも売っていた。造り手の状況は過酷で、空襲があった下町の焼け残った建物やバラックで、残っていたプレス機械やハンマーで造ってた。材料はアメリカ軍の放出した空き缶で、内側はチョコレート缶やココア缶のラベルが残ったまま。その中でも「小菅のジープ」はすごく良く出来ていた。物が無い時代によく造ったよ。外国製のおもちゃを見よう見まねで造り始め、日本人の向上心がオリジナルを越えて、雰囲気があって大人の鑑賞に堪え得るものを造ってしまう。生きることへの情熱を

感じるね。

面白いのは戦後のカストリ雑誌。カストリっていうのはお酒なんだけど、エチルアルコールだとかを入れたもの。日本は敗戦国になって、もう酔わなきゃいけない時代だった。どんな酒豪でも3合飲むとつぶれちゃう。下手したら目までつぶれちゃう。だから創刊号から3号でつぶれちゃう雑誌をカストリ雑誌って。「りべらる」「獵奇」「OK」「共楽」「赤と黒」だとか、実際の生活とはかけ離れた雑誌が、もうどれだけ作られたか。でもそんな時代から人間はよく立ち直るよね。食べ物もない、こんな状態で。

映画、歌が娯楽産業。『ゴジラ』は怖かったよ。原爆の傷が全然癒えてない頃だったからね。歌はほんとに勇気をくれた。『リンゴの唄』『東京キッド』は僕らより父や母だね。「右のポケットには夢がある。左のポケットにはチューイングム」って、ポケットに入るような夢でも生きる勇気がもたらえた、そういう時代だった。

終戦直後に作られた「おそろべき 君等の乳房 夏来る」という詩人西東三鬼の歌がある。戦争が終わり、もんぺと頭巾だった女性が、黒いスカートと白いブラウスで笑いながら歩いて来ると、思わず揺れる胸に目が行って・・・この歌には「ああ、戦争が終わったんだ。平和な時代が来るな」という希望が伺える。

歴史の中で、ほんとに悲惨な時代があって、それを乗り越えなければいけないし、生きていかなければいけない。その時々で、人間って、最大限のことをやっていったんじゃないかなって、小菅のジープとか当時作ったものを見ると、それを感じるよね。その中でも、日本の復興を願って動いた人たちに絶対感謝をしなければいけないし、受け継いだ私たちが、さらに工夫して次の世代につないでいかなきゃいけないね。

小菅のジープと横浜ブリキのおもちゃ博物館展示物(左) / カストリ雑誌の表紙(右) (写真提供: 株式会社トイズ)

特集
土木遺産 XV

MESSAGE

戦後復興の頃



北原 照久
KITAHARA Teruhisa

プロフィール
1948年東京生まれ。ブリキのおもちゃコレクターの第一人者として世界的に知られている。大学時代にスキー留学したヨーロッパで、ものを大切にする人たちの文化に触れ、古い時計や生活骨董、ポスター等の収集を始める。その後、知り合いのデザイナーの家で、インテリアとして飾られていたブリキのおもちゃに出会い、興味を持ち収集を始める。地方の玩具店などに眠っていたブリキのおもちゃを精力的に収集し、マスコミにも知られるようになる。そして、イベントがきっかけで「多くの人にコレクションを見て楽しんでほしい」という思いで1986年4月、横浜山手に「ブリキのおもちゃ博物館」を開館。2003年11月より6年間、フロリダディズニーワールドにて「Tin Toy Stories Made in Japan」のイベントを開催。現在、テレビ東京「開運!なんでも鑑定団」に鑑定士として出演している。また、ラジオ、CM、各地での講演会等でも活躍中。受賞や委員就任が多く著書も多数ある。株式会社トイズ代表取締役。